

LipoTEST Case Report vol.18

2016年6月

Case18 : 肝臓のリンパ腫により特殊な脂質代謝異常を呈した犬

【Profile】

- ・動物種：犬
- ・品種：ケアンテリア
- ・性別：避妊雌
- ・年齢：8歳2ヵ月
- ・B.C.S=3/5（理想体重）

■主訴：尿の色が濃い、元気食欲低下



【検査】

■院内検査

- 身体検査
- ・可視粘膜に黄疸が認められた。

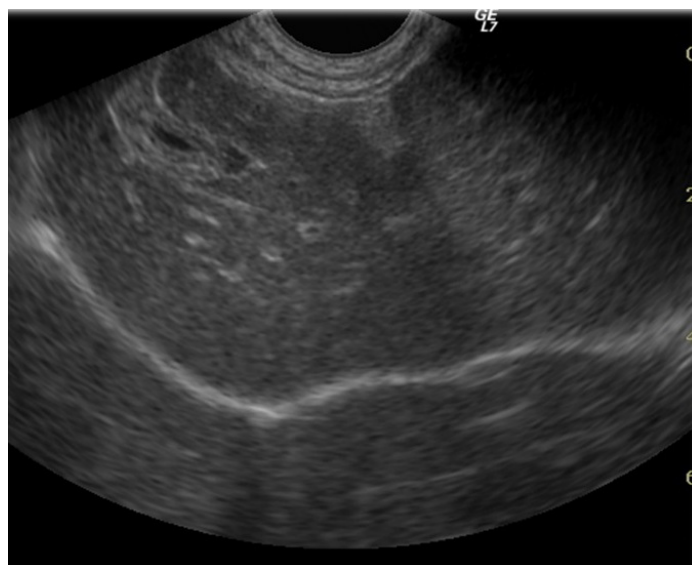
○その他、検査所見

・総ビリルビン値の上昇(16.3mg/dl)、
総コレステロール値の上昇(1637mg/dl)が
認められたためLipoTESTを実施。

・画像診断で肝臓腫大が認められたため、肝臓の
FNA を実施したところ、リンパ腫を示唆する所見が
得られた。遺伝子診断を行い、
T細胞型のLGLリンパ腫と診断した。

■LipoTEST検査所見（1回目）

分類：パターン4・複合逆転型
コレステロールの詳細解析の結果、VLDL～LDLの
分画でHDL-Choよりも高い異常値を示した。
中性脂肪もLDL分画で異常高値を示した。



【治療と転帰】

リンパ腫に対してステロイド投与を行ったところ投与4日後には総ビリルビン値は減少(8.7mg/dl)し、超音波検査では胆汁の再貯留が確認された。L-アスパラキナーゼを投与したところ、総ビリルビン値のさらなる低下(4.0mg/dl)が認められた。総ビリルビン値が2.7mg/dlまで減少したため、ビンクリスチンを通常の75%量で投与したところ、翌日から激しい嘔吐、下痢、起立困難を呈した。ビンクリスチンの副作用と考え、紹介元において対症療法を行ったが、心肺停止により死亡した。

⇒ 裏面に続く

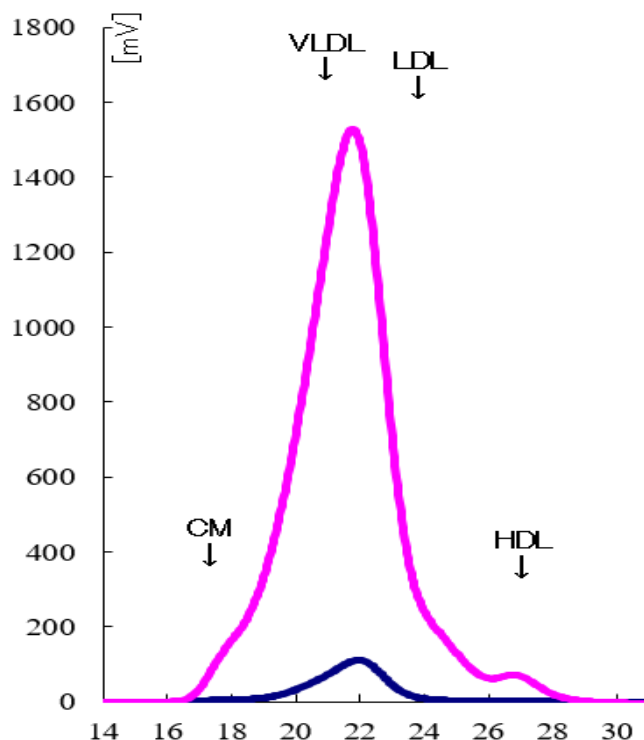
【LipoTEST 波形データの解釈】

VLDL 分画でコレステロールの異常な上昇が認められる、極めて珍しい波形を示していた。

リポ蛋白の代謝異常だけでなく肝臓でのリポ蛋白の生成過程そのものに異常がある可能性がある。

このような非典型的な波形はレムナントと言われ、人では腫瘍性疾患との関連性が示唆されている。

HDL-Cho分画が低値を示しており、肝臓実質が腫瘍細胞へと置換されたことにより肝臓でのコレステロール合成能力が低下していたことが示唆された。



※LDLの異常高値のため、通常縦軸500mv上限のところ1800mvに上方修正

【検査結果と予後判定】

- 本症例はリンパ腫による胆管消失症候群の臨床症状を呈したが、抗癌治療を開始したことで肝内胆管閉塞は解除され、一時的にはT-Bil値は減少した。
- このことから胆汁鬱滞はリンパ腫によるものであり、リンパ腫に対する治療により閉塞の一部が解除されたと考えられた。
- 胆汁鬱滞の誘因として脂質代謝異常が加えられるべきで、その波形所見の解析は、背景に存在する基礎疾患の早期発見や予後判定に有用であることが示された。

日本獣医内科学アカデミー/日本獣医臨床病理学会 2009年講演抄録より引用

◆LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631) にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL : <http://www.lipotest.jp/>